



近鉄は「特急王国」と呼ばれるほど数多くの特急列車を運行していて、中でも稼ぎ頭の観光路線には非常に魅力的な車両を投入しています。わが家はそんな近鉄特急に魅了され、プレミアムな特急列車たちに乗車するために目的地を選んで旅するようになりました。

社内誌「2025年新春号」に投稿した伊勢志摩観光特急「しまかぜ」に続き、今回は吉野観光特急「青の交響曲（シンフォニー）」をご紹介します。

「青の交響曲」は南大阪線と吉野線を走って、大阪阿部野橋と吉野を結ぶ観光特急で、この2線区は近鉄では少数派の狭軌（レール幅1067mm）の路線であるため、標準軌（同1435mm）で結ばれている大阪難波、名古屋、京都などには乗り入れできないのです。

大阪阿部野橋から吉野までを週に6日、1日2往復していて、所要時間は片道約1時間20分。吉野線内では停車駅が多く、単線のた

めにすれ違い待避もあり、特急列車としてはあまり速く走りません。使用されている車両もかなり異色な存在で、何と南大阪線を走っていた「6200系通勤形車両」から魔改造されて誕生しています。

近鉄吉野観光特急

シンフォニー

青の交響曲

Blue Symphony

2024年5月10日 by Tanjima

元は1両に3か所あった車扉は2つ潰して1扉にし、窓の数やサイズも変更。内装は木目基調で、テーブルや座席には本物の木を使用。もはや車内に通勤電車として走っていた痕跡は見当たりません。

そして2・3号車連結部外側に設置されたスピーカーからは、停車中にハイドンの交響曲「時計」が流れます。

列車は3両編成ですが、真ん中の2号車は「ラウンジ車」となっていて、座席を販売しているのは1号車と3号車だけなのです。

座席はすべて2列＋1列の幅広デラックスシートで、グループ旅行を想定しテーブルを備えた「サロン席（3～4人用）」や「ツイン席（2人用）」が配置されています。そのため1編成にわずか65席しかないため、行楽シーズンには座席をゲットすること自体が難しい列車でもあります。

乗車料金は普通運賃のほか、通常の特急料金＋特別料金210円のみ。改造にいくらかかったかわからないほどの豪華列車なのに、採算度外視の近鉄の懐の奥深さを感じます。

2号車のラウンジ車には大型のバーカウンターを設置し、専属のアテンダントが地元の特産品を活用した和菓

子などのスイーツや、ワイン・地酒・ハイボールなどのアルコールを販売。軽食メニューとしては奈良大和肉鶏（肉どり）カレー、「百楽麻婆井」、「カツサンド（3切れ入り）」などが用意されています。また、こ

こで「記念乗車証」も配布しています。バーカウンターで購入し、自分の座席に持ち帰って楽しむのもいいですが、ラウンジ車で車窓を眺めながら、軽食を肴にちよっとお酒を嗜むというのも、「青の交響曲」乗車の楽しみのひとつ。

名古屋からは少し利用しづらい区間を走行しますが、この列車に乗車するのが旅の目的でもないのではないかと考えてくれる、何とも素敵な特急列車なのです。みなさんも一度乗車してみたいかがでしょうか。



2人用ツイン席 座席は対面の固定式



1・3号車は2席＋1席配置で豪華シートが並びます



通勤形車両から魔改造された「青の交響曲（シンフォニー）」



「奈良 大和肉鶏（肉どり）カレー（1400 円）」



2号車は豪華なソファとテーブルが並ぶラウンジ車



外観は濃紺のボディカラーに金色のロゴやラインが描かれています